

令和3年度 磐田市立大藤小学校 学校評価書

重点	目標・取組	評価指標	価評己自	児童	保護者	教職員	考察・改善策	学校関係者評価等
安心・安全な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権教育の推進</li> <li>防災、減災専門家との連携(防災教育)</li> <li>いじめ「解消100%」</li> <li>SW、SSWとの連携</li> <li>PTA、地域、行政との連携(健全育成)</li> <li>キャリア教育の推進</li> </ul>	学校に、相談できる人(先生や友達)がいる	A	90%	89%	100%	<p>○子供たちが、安心して学校に登校できるように、担任だけでなく学校職員がチームとなって、子供たちの様子を見ている。保護者の評価指標の数値は高水準を示しており、これらは、日頃から学校生活における子供の表れについて、家庭との連絡を丁寧に行っていることで、良好な信頼関係を築くことに努めている結果であると捉える。</p> <p>○年間2回実施している「心のアンケート」は、子供の内面を把握することに有効であり、成長過程における心の変容にも注視してきた。また、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携し、子供たちの様子を見てもらう日を設定したり、必要に応じて教育相談を行ったりしたことで、特に気になる表れがある子供たちにとって、「よりよい学校生活の在り方」や「より良い支援の在り方」について考える機会を大切にしている。</p> <p>○今後も、子供たちが伸び伸びと自分の良さを発揮し合える学習環境を提供する。また、子供たち一人一人が安心して学ぶことができるよう、個に応じた最適な支援を行う教職員集団であり続けるよう、日々の研修と修養に努めていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生方の言葉掛けや眼差しが温かい。児童が安心して生活できていると感じられる。</li> <li>全体的に高評価で良い。子供たちと教師がしっかりと向き合っていると感じる。</li> <li>子供たちの心のケアが大事な世の中である。「地域と学校が守っているからね」と安心させる、安心できる居場所づくりがこれからも必要である。</li> </ul>
		先生は、子供のことを理解して指導しようとしている	A	93%	96%	100%		
		わたしたちの学級は、ルールやマナーを守り、協力して生活しようとしている	B	85%	93%	93%		
		友達に嫌なことをしたり悪口を言ったりしない	B	86%	94%	87%		
		危険なことをしないで安全に過ごすことができている	A	97%	97%	100%		
授業改善の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的・対話的で深い学び</li> <li>豊かな人間関係作り(子供同士・子供と教師)</li> <li>自己表現の場づくり</li> <li>基礎学力、基礎体力の保障</li> <li>地域社会との連携</li> </ul>	授業の内容が分かっている	B	92%	86%	93%	<p>○人の成長は、「自分の周りの環境(人・もの・こと)」に大きく起因することから、子供たちにとって学校の役割はとても重要であると考え。とりわけ、「授業」では主体的・対話的で深い学びを追究し、日々実践を積んでいる。年度当初には子供たちが目指したい「授業像」を話し合っていて決めている。理想の授業、理想のクラスを創り上げていこうと、みんなが進むべき道標をはっきりさせることで、多くの子供が学びに意欲的に取り組める学習体制を提供できている。</p> <p>○ペアやグループでの話し合い活動を通して、「聴くといいことがあるな」と実感できる授業展開を模索し、今後もよりよい実践を積み上げていきたい。</p> <p>○「個別最適な学習体制」の視点では、個に応じた声掛けや個に合った支援を心掛けているが、「進んで自分の考えを発表(発言)する」点で低い評価となっている。課題に対し、思考して自分の意見をもっているが、自信をもって一歩踏み出し表現する力が弱いと考察できる。学校として、一歩踏み出すための支援を模索し試すことで、主体的・対話的で深い学びの学習が展開できるよう、研修と修養に努めていきたい。</p> <p>○「英語で質問したり答えたりすることができる」の項目では、低い水準となった。引き続き、木曜日をイングリッシュデイとし英語に親しむ環境を提供していきたい。また、身に付けた英語の力を試す機会として、他校の児童や先生と一緒に実践する機会を設けることも計画したい(学府の6年生によるイングリッシュ・スピーク研修会)。「自分の英語が通じる」と実感できる機会や英語のよさに気付く機会を設定していきたい。</p> <p>○GIGAスクール構想における「一人一台の学習用端末の導入」により、従来の学習活動をより学習効果の高い授業スタイルに移行すべく、日々教材研究と授業実践を積み上げている。端末の操作はどの子もレベルアップしており、子供たちの操作スキルの吸収力は目を見張るものがある。昔から「読み・書き・計算」と言われるように、何でも端末利用にするのではなく、端末の使いどころを見定め、確かな学力を身に付けさせる授業を実践することに努めていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自信をもって一歩踏み出し、表現する力が弱いことについては、中学校でも同様の評価結果が見られる。一体校に向けての課題である。</li> <li>GIGAスクール構想は、大きな教育改革になっている。</li> <li>GIGAスクール構想における「一人一台の学習用端末の導入」については、何でも端末利用にするのではなく、端末の使いどころを見定め、確かな学力を身に付けさせる授業を実践することに賛成である。不易と流行のバランスを考えてほしい。</li> <li>英語(外国語活動)は、早いうちに学ぶと良いと思われる。子供たちには、会話できる楽しさを感じてもらいたい。</li> <li>3、4項目の「進んで」の評価が相対的に低いのは、謙虚さなのか高すぎる目標なのか教育方針とのギャップが表れているように感じる。小学校生活はその人の生き方の礎の大きく寄与する大事な時である。その子にとって大きく成長する助言や寄り添える接し方ができるキーマンとして教育活動を実践してほしい。</li> </ul>
		授業中に友達や先生の話をしっかり聞いている	A	95%	85%	93%		
		進んで自分の考えを発表している	C	66%	63%	67%		
		進んで先生に聞いたり、自分で調べたりして学習している	B	82%	59%	60%		
		外国語の授業を楽しんでいる	B	91%	87%	100%		
		友達や先生と英語で質問したり答えたりすることができる。	C	72%	46%	100%		
		一人一人を大切に授業を行っている	A	95%	95%	100%		
		家庭学習の習慣がついている	B	81%	84%	100%		

活力ある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>校技「なわ跳び」の充実・発展</li> <li>学年を越えた交流活動</li> <li>「STAR」活動の推進</li> </ul> H30全校投票にて決定	楽しく学校生活を過ごしている	A	88%	95%	100%	<p>○STAR活動は、大藤小学校がよりよくなるために、児童がS(そうじ)T(とびなわ)A(あいさつ)R(ルール)の活動における課題を見出し、解決しようと話し合う活動を通して、互いの良さや可能性を発揮しながら、自主的・実践的に取り組むことができるようにさせる活動である。担当学年を決め、子供の「主体性」を尊重し自主的・実践的な活動に取り組ませてきた。一生懸命活動に取り組む子供がいると、放送でよい表われとして紹介するなど、学校生活をよりよくしようと努力している姿が多く見られた。</p> <p>○児童考案のイベントだけでなく、身近な課題を解決しようと、日常的な活動を続け達成感が得られるようにさせたい。</p> <p>○今後の活動全般を通して、「粘り強く取り組む態度やたくましさ」「自分自身がよくなるという自分への挑戦」という意識をもって取り組ませ、挑戦することで成長した自分や友達の良さに気付き、自己肯定感を育ませたいと考える。「子供の主体性を重視＝子供に任せっぱなし」ではなく、教師は活動の方向付けや修正等に関わることを心掛けていきたい。</p> <p>○粘り強く取り組むことは、学校としては特に伝統的ななわ跳びへの取り組みを推進していくことを中心に進めている。日々の生活の中でも、少し我慢して頑張る、こつこつと努力を積み重ねるという場面を意識してつづいていくことの必要性を感じている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活を楽しんでいる児童が多く、素晴らしい。</li> <li>校技のなわ跳びの評価が低い。</li> <li>STAR活動は、良い取り組みである。清掃については、家庭環境に深い関わりが見られることもある。子供たちは、特に学校では努力しているのだろう。最低限の約束事は必要と言える。</li> <li>子供の評価に対して、保護者の評価が低い。頑張っている子供が多いと感じるので、周りが褒めることを大切にすることも良い。</li> </ul>
		進んで、掃除を行っている(STAR活動「S」)	B	82%	67%	87%		
		進んで、縄跳びを行っている(STAR活動「T」)	C	75%	55%	47%		
		進んで、いろいろな場所で「あいさつ」をしている(STAR活動「A」)	B	91%	76%	73%		
		進んできまりや約束を守ろうとしている(STAR活動「R」)	A	94%	87%	93%		
		STAR活動が活性化するように、話し合ったり活動したりしている。	B	90%	60%	85%		
		子供たちは、他学年が考えたSTAR活動に進んで取り組んでいる。	B	80%	71%	87%		
		子供たちは、交流活動をすることで、友達や自分のよさに気付いた。	B	88%	82%	93%		
家庭・地域との共同体制	外部評価による学校改善 <ul style="list-style-type: none"> <li>CSDによるサポーターづくり</li> <li>PTA、学校運営協議会との連携</li> </ul>	早寝、早起き、朝ごはん等の規則正しい生活ができている	A	89%	93%	93%	<p>○子供たちの生活リズムを整える取組みは、向陽学府としても力を入れている。規則正しい生活が送れるよう、保護者に協力を求めながら今後も続けていきたい。</p> <p>○昨年に引き続き、地域について学んでいく学習や、例年行っていた中学校の体育祭や合唱コンクールへ6年生が見学に行くなどの小中の連携は、新型コロナウイルス感染症対策のため、思うように行えないことが多かった。磐田市の教育「学びを止めない」とあるように、感染症対策を講じた上で実践できることを行い、その際は、学府の小中との連携を大切にしていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校からの呼び掛けにより、保護者や地域の方がどのような協力ができかが伝わっていると思われるので、今後も引き続き取り組んでほしい。</li> </ul>
		大藤地区が好きである(お祭り、歴史、自然など)	A	95%	94%	93%		
		子供たちは、地域の人たちと、学校や地域で関わっている。	B		86%	73%		
		6年生への質問 中学校での学習や生活を楽しみにしている	A	82%	97%	100%		

学校関係者評価を受けてのまとめ

・未来を担う子供たちは、物事を知る機会と挑戦する経験が豊かな人間形成につながっていくと思われる。自信をもたせる、興味を深堀させる指導や教育活動の充実に期待されていることが分かる。大藤小学校に通わせて良かった、向陽学府で育てて良かった、自慢の学校、自慢の地域だと真に感じられる子供たちの育成に努めていきたい。